

風土記の丘の花だより¹⁸¹

今、そしてこれから見られる植物(2023年4月15日)

カスミザクラもそろそろ散り、春も本番になってきました。あたりは春の花でいっぱいです。前号で紹介したハランの花ですが、興味を持たれた方が少なからずおられたようで、株元をガサガサされている方を何人もお見かけしました。この花だよりをご覧になって、ふだん気にも留めない植物に目を向ける方が増えたんだと思うと、とても嬉しかったです。



まずは名前に春と付く花から紹介します。ハルジオンです。ピンク色や白色の花で、つぼみの頃は茎ごとうなだれていますが、花が咲く頃にはシャンとしています。日本の草花のように思いますが、外来植物です。もう少ししたらよく似たヒメジオンが咲き始めます。両者は開花期が重なりますが、ハルは茎が太めで、背も数十センチ程度で、全体に毛深いです。ヒメは比較的ほっそりしていて、1メートルほどに伸びます。名前もハルは「ジオン」、ヒメは「ジオオン」とビミョウに違います。ややこしいですね。



今年もジュウニヒトエが咲きました。以前、盗掘されるという悲しい出来事がありました。数株がしっかり生き延び花を咲かせてくれました。どの花もそうですが、これは特にみんなで見守っていかねばならない希少な植物です。今年はそれぞれの株に小さな立て札を立てました。こんな無粋なことはしたくありませんが、悲劇をくりかえしたくありませんので、あしからず。それにしてもきれいな花ですね。



これも里山の春を代表する花、「春の蘭」と書いてシュンランです。園芸植物のシンビジュウムなどと同じ仲間です。万葉植物園にはたくさん植えていますが、道沿いでもたくさん見かけます。ラン独特の花には何となく気品が漂います。野生ランも愛好家(?)が多く、シュンランもたまに掘り去られます。ご自分の山から掘って来るのは勝手ですが、みんなが楽しく歩くみんなの山ですから、心得違いをされては困りますね。みんなで眺めて。とるのは写真だけにしましょう。



この木は私の知る限り風土記の丘には1本しかありません。ミツバウツギです。おそらく以前にどなたかが植えてくださったのでしょう。ハクモクレンやコブシが咲く広場を過ぎて、少し行くと、右斜めに入る細い道があります。それを少しだけ下って右側、フェンスの際にこの花が咲いています。同じウツギですが、「うのはな」のウツギとは全く違う植物です。じゃあ何の仲間なんだということになります。松下